



生野産業会

「さまざまな分野にチャレンジしたことが、ここまでに生き残れた秘訣かもしれない」

明治33(1900)年に創業し、約115年の歴史を誇るファッションパーツ総合メーカー、「イカリ工業」。総社社長(45)は、消費者ニーズに柔軟に対応してきた経営方針が、「老舗」に成長した源になっていると自負する。ひもなどを通すため、衣類や靴などに付けられる小穴のある機状金具の「ハトメ」創業から5年後の明治38年、従社長の曾祖父で創業者の伊之助さんが国内初のハトメ製造機を開発し、事業の本格展開を始めた。

戦時中の昭和20年8月、空襲で工場が焼失するなど会社は存続の危機を迎えるが、2年後の22年には事業を再開。

ファッションパーツ総合メーカー

## 「イカリ工業」

創業110年超の老舗企業のかじ取りに奮闘する総社社長



イカリ工業 創業は明治33年。38年に国内初の「ハトメ製造機」を開発し、ハトメ事業に乗り出す。昭和51年には全自動めっき装置を導入し、めっき事業にも参入。現在、金属製バックル事業やレーザー加工事業など多角的経営を展開している。資本金2000万円。従業員約40人。

消費者ニーズに柔軟対応  
老舗成長の源

その後は、めっき加工事業にも進出するなど事業の多角化を推進してきた。さらにめっき加工事業では08年にコンビ

ユーターシステムラインを導入、省力化・低コスト化を図

つて来た。

リーマン・ショック(200

08年)の影響でハトメ業界が大きな打撃を受けること、多角化をさらに加速。今ではベ

ルトに使われる金属製バックルやレーザー加工などの事業を手掛けている。総社長は「どんな注文も断らないという姿勢を貫いてきた」と振り返る。

現在、同社が注力しているのが海外事業だ。約15年前に自動車用電子部品工場の工場

を中国・広東省に設立、海外事業に乗り出した。商品は独自の自動車メーカー、フォルクスワーゲン向けを中心とした自動車用電子部品に使われるなど、海外事業は順調に推移している。

3年前には上海近郊にある工業団地内の約5千坪(約1万6500平方メートル)の敷地に工場を移転するなど、さらなる海外事業の拡大を図っており。平成32年までには海外売上高で、現在の倍増となる24億円を目指したい」という。

会社を取り組むべき課題の柱の一つが社員教育だ。同社は3年前、企業の商品システムを規定した品質規格「ISO9001」の認証を取得した。同社の高い品質が評価されたわけだが、総社長は「ISOの認証取得で、社員にはさらなる技術向上を促すねらいもあった」と説明する。

「社員が進化する」ことで、会社の質は高くなっていく」という信念で、「老舗」をさらに成長させる考えだ。

(西田広博) おわり

おおさか